

家庭・学校・地域の教育力の向上をめざして ～三位一体のつながりを～

《報告書》



彦根市社会教育委員の会議

令和4年(2022年)3月

目 次

1	テーマの設定	1
2	討議の柱	1
3	部会の構成	2
4	各部会の取組	3
5	会議の日程	4
6	各部会の取組	
	A部会「学校（園）と家庭・地域の連携・協働を考える部会」	5
	B部会「職場（企業）と家庭・学校の連携を考える部会」	8
	C部会「家庭の教育力の充実・向上を考える部会」	11

※ 表紙のデザイン 彦根市家庭教育協力企業協定制度（ひこふぁみ）のロゴマーク
クローバーの葉の緑が子どもを、青が企業を、ピンクが家庭を表している。
原案：彦根市立中央中学校美術部

令和 2・3 年度社会教育委員の会議のテーマ

「家庭・学校・地域の教育力の向上をめざして
～三位一体のつながりを～」

1 テーマの設定について

彦根市社会教育委員の会議では、これまで家庭や地域の教育力を高めるための連携の仕方、子どもや家庭を地域や職場等で支えるための仕組みづくりについて調査・協議をしてきた。平成 28・29 年度は「家庭・地域の教育力の向上を目指して～望ましい連携・協働の在り方を考える～」と題してその具現化とアクション、平成 30・令和元年度はこれまでの流れを継承・発展させることを念頭に「家庭・地域の教育力の向上を目指して～効果的な連携・協働を考える～」と題して、継続して協議をしてきた。

令和 2・3 年度は、これまでの流れを継承しながら、学校と地域の連携・協働を深めるためにコミュニティ・スクール化を前向きに進めることを念頭に

① 学校・家庭・地域・職場（企業）が連携・協働して子どもを育成するための事業展開のさらなる推進と検証

② 連携・協働の効果を高める取組の評価と時代の変化に合わせた情報発信のあり方の 2 つの切り口で、調査・協議を進めた。

2 討議の柱

① 学校（園）と家庭・地域の連携・協働を考える

（コミュニティ・スクールの推進に向けた取組について）

② 職場（企業）と家庭・学校の連携を考える

（メディア等の有効活用による「ひこふぁみ」の啓発・普及と検証について）

③ 家庭の教育力の充実・向上を考える

（学校・PTA・地域それぞれの役割の明確化とリーフレット等を活用した啓発の工夫について）

3 部会の構成

◎委員長 森 將豪

◎副委員長 上ノ山 真佐子

A部会 学校（園）と家庭・地域の連携・協働を考える部会（5名）

彦根市立城北小学校	校長	矢田 充宏（部会長）
彦根市立城北幼稚園	園長	矢守 ひとみ（R2）
彦根市立稲枝東幼稚園	園長	小林 典子（R3）
彦根市スポーツ協会	副会長	中村 傳一郎
南地区公民館	館長	橋本 幸広
学識経験者		辻本 輝晃

B部会 職場（企業）と家庭・学校の連携を考える部会（3名）

彦根市子ども会指導者連合会	顧問	馬場 和子（部会長）
彦根文化連盟	副会長	高木 博史
公益社団法人 彦根青年会議所	理事長	宮川 佳典（R2）
		北村 忠征（R3）

C部会 家庭の教育力の充実・向上を考える部会（4名）

彦根市青少年育成市民会議	会長	吉田 徳一郎（部会長）
彦根市PTA連絡協議会	顧問	安澤 勝
彦根市地域婦人団体連絡協議会	副会長	垣内 清美
公民館利用者		水野 隆雄

事務局 彦根市教育委員会事務局 生涯学習課
課長 久保田 雄介 主幹 磯崎 久和
主査 山岡 直実（R2） 主査 奥村 育美（R3）

※ 年3回の全体会を開催した。各部会については、必要に応じて、適宜開催した。

4 各部会の取組

令和2・令和3年度の活動は、新型コロナウイルス感染拡大のため、予定していた会議が中止になったり活動が中断されたりした。そのため、計画していた活動を断念せざるを得ない状況であったが、感染防止対策を十分に講じた上で、できる範囲での活動を行った。

A部会：学校（園）と家庭・地域の連携・協働を考える部会

部会長（矢田 充宏）

学校（園）と家庭・地域の連携について考える

- 令和2年度は、社会教育委員がコミュニティ・スクールについてさらに知る必要があると考え、県教委のCSアドバイザーを招いて「コミュニティ・スクール推進に向けて社会教育委員として何ができるのか」をテーマに研修会を行った。
- 令和3年度は、本市でコミュニティ・スクール導入をさらに進めていくにあたり、課題になっていることは何か、それを解消していくにはどうすればいいのかを話し合った。

B部会：職場と家庭・学校の連携を考える部会

部会長（馬場 和子）

彦根市家庭教育協力企業協定制度（ひこふぁみ）の普及

- 彦根市家庭教育協力企業協定制度（ひこふぁみ）をより多くの人たちに知っていただきたいと考え、令和2年より、「エフエムひこね」を活用して各事業所の取組を広報しようとしていたが、10社中5社収録を終えたところで、新型コロナウイルス感染症拡大のため、やむを得ず中止とした。
- 令和3年度は、彦根市家庭教育協力企業協定制度（ひこふぁみ）をさらに効果的に広報し啓発するため、10月以降「エフエムひこね」を活用し、社会教育委員がそれぞれ活動報告を行った。また、令和4年1月からは、事業所3社がそれぞれの取組を広報した。

C部会：家庭の教育力の充実・向上を考える部会

部会長（吉田 徳一郎）

家庭の教育力を高める支援

- 令和2年度は、前期からの継続した取組として、「家庭教育啓発リーフレット」を乳幼児健診（2歳6か月児健康診査）時に配布した。（面談希望があり来談した方のみ）。
- 令和3年度は、「家庭教育啓発リーフレット」にQRコードを掲載したものを作成した。また、リーフレットは、令和2年度に引き続き2歳半健診時に配布するとともに、小学校と幼稚園・保育所の全保護者に配布した。さらに、小・中学校の学校ホームページにバナーを張ったり、広報ひこねに掲載したりするなど家庭教育の重要性の周知に努めた。
- B部会の取組である「ひこふぁみ」登録企業へ「家庭教育啓発リーフレット」を配布するとともに、活用を依頼した。

5 会議の日程

令和2年度

月 日	会 議	内 容
7 月 2 日	第 1 回全体会	諮問「成年年齢引下げに伴う彦根市における成人式典の対称年齢等について」 平成 31 年度取組報告 令和 2 年度取組検討 各部会
7 月 20 日	第 2 回全体会	答申案 協議 令和 2 年度取組検討 各部会
8 月 5 日		A 部会 C 部会 開催
9 月 14 日		A 部会 開催
2 月	第 3 回全体会 【書面会議】	各部会の取組まとめ (兼 公民館運営協議会)

※部会については、適宜開催

令和3年度

月 日	会 議	内 容
5 月 27 日	第 1 回全体会	令和 2 取組報告 令和 3 取組検討 各部会
6 月 30 日		C 部会 開催
7 月 7 日		A 部会 開催
8 月 5 日		A 部会 中止
10 月 18 日		C 部会 開催
11 月 16 日	第 2 回全体会	各部会の取組報告 (兼・公民館運営審議会) 各部会
12 月 13 日		C 部会 開催
1 月 14 日		A 部会 中止
2 月	第 3 回全体会 【書面会議】	各部会の取組まとめ 報告書の原稿確認

※部会については、適宜開催

6 各部会の取組

■ 学校(園)と家庭・地域の連携・協働を考える部会		彦根市社会教育委員の会議		A 部会報告
■ 取組内容(基本施策の概要) 学校・家庭・地域が連携・協働して子どもを育てるために、コミュニティ・スクールの設置を推進する。		(部会長) 矢田 充宏	橋本 幸広	
		辻本 輝晃	小林 典子 (R3)	
		中村 傳一郎	矢守 ひとみ (R2)	

■ 具体的な取組内容、部会の経過

わたしたち A 部会では、学校・家庭・地域が連携・協働して子どもを育てるために、コミュニティ・スクールの設置に向けた取組を推進してきた。

① 令和 2 年度

7 月 2 日 (木) 部会 (市民会館)

昨年度までの取組をふりかえるとともに、今年度の取組の方向性について協議をした。

7 月 20 日 (月) 部会 (市民会館)

コミュニティ・スクールを中心とした「地域とともにある学校づくり」を推進していくという取組の方向性について確認した。

8 月 5 日 (水) 部会 (南地区公民館)

各地域における「地域とともにある学校づくり」について情報交換をするとともに、研修会を実施することを確認した。

9 月 14 日 (月) 研修会 (南地区公民館)

○講師：滋賀県コミュニティ・スクールアドバイザー 北辺禎雄先生

○演題：「コミュニティ・スクール推進に向けて社会教育委員としてできること」

○内容：コミュニティ・スクールで大切にしたいこと

- ・持続可能な仕組みづくりが大切。
- ・学校や家庭・地域がビジョンを共有する。そのために繰り返し熟議を行う。
- ・地域住民は当事者として教育活動に参画する。
- ・地域連携は目的ではなく手段である。
- ・法律に基づいた制度である。

② 令和 3 年度

5 月 27 日 (木) 部会 (市民会館)

○コミュニティ・スクールに関する国の動向、県の設置状況、地域の状況等について情報交換をした。

- ・学校運営協議会の設置を努力義務化 (地方教育行政の組織及び運営に関する法律)
- ・滋賀県 小学校の設置校数 135 校 中学校の設置校数 52 校 (令和 3 年度)
- ・彦根市 6 校 (令和 3 年度)

○彦根市でコミュニティ・スクールの導入が十分には進んでいない理由について協議した。

- ・地域学校協働活動が充実していて、導入に大きなメリットや必要性を感じない。
- ・学校運営に参画することへの地域の方の懸念。
- ・教職員の負担増の不安。
- ・学校運営協議会委員の人材確保の難しさ。

7 月 7 日 (水) 部会 (市民会館)

○市の方針について確認するとともに、コミュニティ・スクールのさらなる推進のために生涯学習課に働きかけをした。

- ・市の方針＝令和 4 年度は環境が整った学校から導入し、今後、導入を加速していく。

○生涯学習課では、コミュニティ・スクール導入に向けて次のような取組をされた。

- ・校長会での研修会の実施
- ・学校訪問や、学校別の聞き取りや助言
- ・コミュニティ・スクール導入の手引書の作成、配布

11月16日(火)部会(市役所)

報告書の作成について協議をする。

■取組に当たっての工夫・留意点

- 部会の取組を行うにあたっては、生涯学習課との連携を大切にし市の方針に沿って取組を進めてきた。
○学校側からの視点だけではなく、家庭や地域からの見方や考え方を大切にしながら協議を進めてきた。

■成果と課題

- 生涯学習課がさまざまな取組をされた結果、市内ではコミュニティ・スクール導入に向けた機運が高まり、令和3年度には新たに2校にコミュニティ・スクールが導入されることになった。令和4年度にはさらに複数の学校が設置予定である。
- 各校の実情に応じて準備を整えていただき、できるだけ早期にすべての小中学校でコミュニティ・スクールが設置できるよう働きかけていく。

■今後に向けて

学校だけでなく、家庭や地域が当事者意識をもって積極的に子どもの教育に関わっていくために、「地域とともにある学校づくり」を進めていかなければならない。そのためにコミュニティ・スクールの導入は有効である。しかしながら、各校・地域の実情があり、一律な型での取組を進めていこうとすると無理が生じる。大切なのは、地域の方にも当事者意識をもつていただき地域の方と課題を共有するということであり、行事や活動をするということではない。「○○○しなければならない」という発想ではなく、各校・地域の実態に合わせた取組を進め、地域に合ったコミュニティ・スクールを模索していくことが大切だと思う。



■ 社会教育委員の会議「R3提言」・重点項目・目標シート・ロードマップ・評価シート

A部会

基本的方向性	成果目標	基本施策	6月	7月	8月	9月	成果等・評価(A.B.C.D)	10月	11月	12月	1月	2月	成果等・評価(A.B.C.D)
A：学校と家庭・地域の連携について考える	コミュニティ・スクール設置に向けた地域における環境作りの一役を担う。	コミュニティ・スクール設置に向けて、地域とともにある学校づくりの推進を図る。	・コミュニティ・スクールに関する国の動向、市内の設置状況、目的、仕組み等について情報交換をする。 ・コミュニティ・スクール導入のメリットや導入が進まない理由について協議する。 ・部会の実施日＝5月27日、7月7日			・市教委の取組について情報共有をする。 ・報告書の作成について協議する。 ・部会の実施日＝11月16日、1月14日(データ送信による)			B			B	

評価指標・評価基準 例

A部会

各学校・園と地域は、連携・協働に意欲的か。
 地域との連携・協働のよさが学校と地域に啓発できているか。
 地域学校協働本部の目標・活動等が周知されているか。
 子どもたちの体験活動の場が拡充し、持続可能なものになっているか。

評価

A：計画どおりに進んでいる。
 B：概ね適正に進んでいる。
 C：遅れている。
 D：実施見直し、変更必要あり。

■ 職場（企業）と家庭・学校の連携を考える部会		彦根市社会教育委員の会議	B 部会報告
■ 取組内容(基本施策の概要) ・メディア等を有効に活用し、「ひこふぁみ」の啓発と普及に努める。 ・ひこふぁみ登録企業・事業所のさらなる増加に努める。		(部会長) 馬場 和子	高木 博史
		北村 忠征 (R3)	宮川 佳典 (R2)
		森 将豪 (委員長)	—

■ 具体的な取組内容（取組の実際）

令和2・3年度は、平成30・令和元年度からの課題をふまえ、これまでの取組の流れを継承しさらに発展させることを目的とし、

① メディア等を有効に活用し、「ひこふぁみ」の啓発と普及

② ひこふぁみ登録企業・事業所の更なる増加

の2つを主たる取組とし、協議を重ねその実現に務めた。

令和2年度

1. ひこふぁみ登録企業・事業所が行っている特筆すべき取組を「エフエムひこねコミュニティ放送」を通じて効果的に広報し「ひこふぁみ」を広く市民や企業に啓発するために、“ひこふぁみアワー”という番組名で放送枠(15分)を確保し、B部会長をラジオパーソナリティとしてスタジオ録音取りを開始した。録音取りは、各登録企業や事業所に番組への出演依頼を行い、令和2年2月26日より始められた。

当初、録音取りは予定通りに進捗したが、折からのコロナ感染症蔓延のため放送6日分の録音取りを行ったところでやむなく中止となった。放送は4月2日から開始され、毎週木曜日の午前6時、9時、午後3時の1日3回、延べ6週間にわたり放送を行い、その後は登録企業の大阪ガス株式会社滋賀東支社の好意により“ひこふぁみアワー・プラス”という番組名で放送枠を維持し、番組の趣旨にのっとり日常生活におけるワンポイントアドバイス等を含む「ひこふぁみ」啓発の放送を継続した。

2. 公益社団法人彦根青年会議所のメンバー企業および事業所に対して、同会議所理事長を通じて「ひこふぁみ」への登録を依頼した。その結果、登録可能性のある企業・事業所の候補があげられた。

令和3年度

1. 「ひこふぁみ」をさらに効果的に広報し啓発するために、独任制の社会教育委員が独自に取り組んでいる活動を「エフエムひこねコミュニティ放送」を通じて広報し啓発する計画を立案し、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言終了後の10月18日から録音取りを開始した。当日は、滋賀県教育委員会事務局生涯学習課より社会教育主事が録音取りの視察に来られた。放送は11月4日より開始された。
2. 新たに株式会社一圓興産および株式会社高木造園の2社とひこふぁみ登録の契約が成った。
3. 「エフエムひこねコミュニティ放送」を通じて、令和4年1月からひこふぁみ登録事業者3社の録音取りをし、それぞれの取組を広報した。

■ 取組の経過

令和2年度

- | | | |
|-------|------|-----------------|
| 2月26日 | 録音取り | 彦根市社会教育委員会 森委員長 |
| 3月25日 | 録音取り | 夏原工業株式会社 |
| 3月25日 | 録音取り | 森田電機工業所 |
| 4月15日 | 録音取り | 大阪ガス株式会社 滋賀東支社 |
| 4月15日 | 録音取り | 株式会社 千成亭 |
| 4月15日 | 録音取り | 油藤商事 株式会社 |

令和3年度

- | | | |
|--------|------|-----------------|
| 10月18日 | 録音取り | 彦根市社会教育委員会 森委員長 |
| 10月25日 | 録音取り | 上ノ山 副委員長 |
| 10月25日 | 録音取り | 橋本 委員 |
| 11月 8日 | 録音取り | 中村 委員 |
| 11月15日 | 録音取り | 小林 委員 |

- 11月22日 録音取り 北村 委員
- 11月22日 録音取り 吉田 委員
- 12月29日 録音取り 安澤委員
- 1月17日 録音取り 高木委員、辻本 委員
- 1月31日 録音取り 大阪ガス株式会社 滋賀事業所
- 2月 7日 録音取り 彦根商工会議所
- 2月14日 録音取り キリンビール/キリンビバレッジ滋賀工場

■企業訪問（ひこふぁみ登録締結）

令和3年度

- 11月25日 企業訪問 株式会社 一圓興産
- 12月21日 企業訪問 株式会社 高木造園

■その他 ひこふぁみ登録済企業および事業所一覧

1. 株式会社 千成亭
2. 油藤商事株式会社
3. 大阪ガス株式会社 滋賀東支社
4. 滋賀イエローハット株式会社
5. 彦根商工会議所
6. 株式会社 森田電器工業所
7. 株式会社 平和堂
8. 株式会社 平和堂 フレンドマート稲枝店
9. 株式会社 平和堂 フレンドマート大藪店
10. 株式会社 平和堂 アル・プラザ店
11. 株式会社 平和堂 彦根銀座店
12. 株式会社 平和堂 フレンドマート彦根地蔵店
13. ロード企画（株）豊郷営業所
14. 株式会社 ケレスたなか
15. BE-CHICK（ビーチック）
16. 株式会社 ナショナルメンテナンス
17. 株式会社 平和堂 ビバシティ平和堂
18. 株式会社 平和堂 日夏店
19. 株式会社 西村教材
20. 有限会社 藤塚時計店
21. 株式会社 文教スタジオ
22. 夏原工業株式会社
23. 滋賀中央信用金庫
24. パナソニック株式会社アライアンス社 彦根工場
25. キリンビール株式会社 滋賀工場
26. フジテック株式会社 ビッグウイング
27. マルホ株式会社 彦根工場
28. 株式会社 滋賀銀行 彦根支店（彦根駅前支店に統合）
29. 株式会社 滋賀銀行 彦根南支店
30. 株式会社 滋賀銀行 彦根駅前支店
31. 株式会社 滋賀銀行 稲枝支店
32. 株式会社 滋賀銀行 大藪支店
33. 株式会社 滋賀銀行 河瀬支店
34. 株式会社 滋賀銀行 高宮支店
35. 株式会社 一圓興産
36. 株式会社 高木造園



【ひこふぁみ啓発用ポスター】

■ 社会教育委員の会議「R3提言」・重点項目・目標シート・ロードマップ・評価シート

B部会

基本的方向性	成果目標	基本施策	6月	7月	8月	9月	成果等・評価(A,B,C,D)	10月	11月	12月	1月	2月	成果等・評価(A,B,C,D)
B: 企業と学校・家庭・地域連携について考える	ひこふあみ登録企業の拡大	・企業・事業所・商店への個別の働きかけ ・彦根青年会議所会員、登録の働きかけ	↑ ・商工会議所再チャレンジ				B	・2件登録					B
	ひこふあみアワーの再開に向け準備	・登録企業の報告 ・出演交渉・打ち合わせ	↑ ・提出の報告書まとめ ↑ ・打診→交渉→調整				A		・収録・日程・調整 ・今後、登録企業にも働きかける。				A
	市民への啓発	社会教育委員による「ひこふあみアワー」出演	↑ ・日程調整・打ち合わせ				A		「ひこふあみ・アワー」 FMひこね収録・毎週月曜日 社会教育委員の方に順次 ※放送は毎週木曜日、1日3回放送 (6:00 9:07 15:40)				A

評価指標・評価基準例

職場環境づくり・整備に向けた理解・啓発は計画的に進められているか。
 企業から市の行事・地域イベントへの参加・協力要請は十分にされているか。
 助成制度(企業協定)に申し込みがされ、活用されているか。

評価

A: 計画どおりに進んでいる。
 B: 概ね適正に進んでいる。
 C: 遅れている。
 D: 実施見直し、変更必要あり。

■ 家庭の教育力の充実・向上を考える部会 彦根市社会教育委員の会議 C部会報告			
■ 取組内容(基本施策の概要)		(部会長)	
		吉田 徳一郎	水野 隆雄
	家庭教育の充実向上について考える	垣内 清美	安澤 勝
	①家庭教育啓発リーフレットの配布 ②家庭教育啓発リーフレットの活用	上ノ山 真佐子 (副委員長)	—

■具体的な取組内容（取組の実際）

わたしたちC部会では、平成30年度に作成し、平成31年度から配布を始めた「彦根市家庭教育啓発リーフレット『家庭教育のすすめ』」の活用と効果の評価等について協議をした。

令和2年度

- ・家庭教育啓発リーフレットの活用として、引き続き配布先を協議した。
- ・家庭教育啓発リーフレットの活用として、学校・PTA・地域などで開催される教育研修会等に出向して広報・情報提供することについて協議した。
- ・家庭教育啓発リーフレットに掲載されている「ふれあいサンデー」の周知啓発の機会として、ひこふぁみ企業・事業所との協働を検討した。

令和3年度

- ・コロナ禍で様々なイベントや会議が中止となるなか、家庭教育啓発リーフレットの配布や活用について計画の見直しを行った。
- ・小学校の生活習慣・挨拶実施状況（各アンケート参照）を踏まえ、家庭教育啓発リーフレットの有効な活用について協議した。
- ・家庭教育啓発リーフレットの家庭での具体的活用方法について協議した。

■取組の実際（家庭教育啓発リーフレットの活用・配布）

【保護者（家庭・学校）】

- ・前期からの継続した取組として、乳幼児健診（2歳6か月児健康診査）時に配布した。（新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、面談希望があり来談した方のみ）に説明・配布）
- ・市内小学校児童の保護者と市内幼稚園・保育所の5歳児の保護者に家庭教育啓発リーフレットを配布した。
- ・市内各小・中学校のホームページにバナーを貼り、多くの保護者に家庭教育啓発リーフレットにアクセスして見ていただけるようにした。
- ・彦根市PTA連絡協議会と連携し、「お父さんの研修会」で家庭教育啓発リーフレットを配布した。

【企業等】

- ・彦根医師会や児童支援のNPO等と協働して、産婦人科や小児科での配布やポスター掲示、児童支援の各種イベント等での配布を検討したが、感染リスクやコロナ禍でイベントが中止や自粛されていること等を考慮して断念した。
- ・B部会の取組である「ひこふぁみ」登録企業へ家庭教育啓発リーフレットを配布するとともに、活用を依頼した。

【地域】

- ・デジタル化への対応とともに、いつでも家庭教育啓発リーフレットを参照していただけるようにするため、QRコードを掲載したリーフレットを作成した。（改訂版の作成）
- ・彦根市発行の「広報ひこね」に家庭教育啓発文とリーフレットのQRコードを掲載した。
- ・各学区の青少年育成協議会会長に家庭教育啓発リーフレットを配布した。
- ・各地域の老人会や自治会が資料や案内文書等を配布する際に、家庭教育啓発リーフレットも配布をお願いできないか提案した。

■部会の経過

令和2年度

- 8月5日 ・コロナ禍における家庭教育啓発リーフレットの配布や活用についての計画の見直し

令和3年度

- 6月30日 ・健康推進課との連携、広報ひこねへの掲載、地域との連携（老人会や自治会）、彦根市PTA連絡協議会との連携についての活動計画の検討
- ・家庭教育啓発リーフレットの有効的な活用についての協議
- 10月18日 ・HPへのバナー貼付、保護者や「ひこふあみ」登録企業への配布、地域との連携（青少年育成協議会）についての活動計画を検討
- ・家庭教育啓発リーフレットの家庭での具体的活用方法の協議（次年度に向けて）
- 12月13日 ・今年度の活動の振り返りと次年度の取組課題についての協議

■成果と課題

- ・保護者や「ひこふあみ」登録企業、地域への啓発については、ほぼ計画通りに進められた。
- ・自治会の配布物が多いことや負担軽減に鑑み、自治会によるリーフレット配布は見合わせた。
- ・健康推進課の担当の方から「健康推進課でも早寝早起き朝ごはんへの取組を進めているので、家庭教育啓発リーフレットの配布と共に活用させていただいている」との言葉が頂けた。
- ・小中学校のHPにバナーを掲載したことにより、保護者に家庭教育啓発リーフレットを閲覧していただく機会を増やすことができた。
- ・家庭教育啓発リーフレットのQRコードを作成・掲載することにより、家庭教育啓発リーフレット掲載ページにアクセスしていただく機会を設けることができた。

■次年度以降に実践すべきこと

- ・各地域の老人会・自治会へ資料配布について、自治会連合会、老人会連合会にお願いできないか検討する。
- ・C部会では、なによりも「あいさつ」実施を強調したい。ついては、「あいさつ」の大人への啓発をしていきたい。
- ・読み聞かせ・読書習慣については、空き時間を読書の時間へと利用すること、また音読の勧めをしていきたい。大人が読書をする姿を子どもへも訴えたい。
- ・スマホ利用について、犯罪への被害加害に関わってしまうことやいじめにつながる心配等を訴えながら、眼球運動の阻害、視力低下、意欲等いろいろな弊害があることや、子どもの健やかな育ちは、心身ともに健やかな育ちが大切であることを踏まえ、乳幼児期からの発達育を啓発したい。
- ・リーフレットの家庭での具体的活用法とその効果を広く知っていただくための資料（冊子やデータ）を作成する。作成に当たっては市内の専門家や教員にも協力していただきその知見やネットワークを活用する。

（例）「わが家の取組項目」やチェック表の作成など



<家庭教育啓発リーフレット（QRコード掲載）>

基本的方向性	成果目標	基本施策	6月	7月	8月	9月	成果等・評価(A,B,C,D)	10月	11月	12月	1月	2月	成果等・評価(A,B,C,D)
C: 家庭教育の充実向上について考える	効果的な家庭教育啓発リーフレット配布機会を調整し、広報活動に努める。また、他の部会とも連携するなど、多面的に情報提供する。	①市健康推進課の2歳半健診時配布を継続する。 ②各地域の老人会や自治会へ家庭教育啓発リーフレット(QRコード掲載)を提供し、会の配布物の裏面等の余白にリーフレットを掲載いただく会員への配布を依頼する。 ③PTA研修会での家庭教育啓発リーフレット活用依頼 ④彦Pで実施される「お父さんの研修会」参加者に100部、配布。 ⑤他の部会と連携する。					①A ②D 自治会への配布は難しい、先ず、学区連合会にリーフレットの広報が出来ないか検討する。 ③A ④A ⑤D A部会、B部会へ11/16委員会で依頼 B部会へは、ひこふあみ企業へのリーフレットの配布やQRコードの活用を依頼する。	10/18(月)C部会 報告 ①市の広報にQRコード入りリーフレット掲載依頼 ②市内小学校児童の保護者と市内幼稚園・保育所の5歳児保護者に家庭教育啓発リーフレットの配布・活用依頼 ③学校のホームページにの家庭教育啓発リーフレットの掲載依頼 ④C部会では、なによりも「あいさつ」の大切さを強調したい。先生も挨拶、大人も挨拶を進めたい。学校などの「あいさつをしている」アンケートでは、「地域・家庭であいさつをしている。」というひとつ項目での調査でなく、「学校」であいさつ、「家庭」であいさつ、「地域」であいさつと項目を分けアンケート調査してもらうようお願いする。(A部会へ) ⑤読み聞かせ・読書習慣について、大人が読書する姿を子どもへ伝えていく。スマホ時間、ゲーム時間、空いた時間を読書時間へ利用すること、声を出して読むことを奨励する。 ⑥スマホ利用について、犯罪への被害加害に関わってしまうことやいじめにつながる心配を訴えながら、眼球運動の阻害、視力低下、意欲等様々な弊害があることや、心身ともに健やかな育ちが大切であることを踏まえ、乳幼児期から啓発する。 ⑦「生活習慣」の項では、早寝が早起き朝ごはんについて啓発する。 ⑧QRコードを活用した家庭教育啓発リーフレットの活用 ⑨スマホステップ:少しづつ、家庭教育で次はどうするかを提案・実践のヒント・おすすめを考えていく。(次年度)				2学期末 小学校と幼稚園に配布。 他、関係機関、学区連合会、以前に出た民生委員さん等に数部ずつ配布されは。	
	家庭教育啓発リーフレット配布による効果を検証する。	小学校の生活習慣・挨拶実況(各アンケート参照)を踏まえ、家庭教育啓発リーフレットの有効な活用について協議する。					A 10/18 C部会 家庭教育啓発リーフレットの有効な活用について、協議した。						
	提言の普及、広報活動をする。	①家庭教育啓発リーフレットの活用 ②QRコードを新編作成家庭教育啓発リーフレットに掲載 ③家庭教育啓発リーフレットのデータ版活用					学区青少年育成協議会会長にリーフレットについて説明配布。						今年度予算で新編作成される家庭教育啓発リーフレットにQRコードを掲載。
			6/30(水)10:00C部会 開催						10/18(月)12/13(月) C部会 開催				

評価指標・評価基準例

C部会

家庭教育の現状把握、課題の明確化ができているか。
家庭での課題を吸い上げる具体的な手立ては何か。
家庭教育支援の具体的な方策を考え出すことができるか。

評価

A: 計画どおりに進んでいる。
B: 概ね適正に進んでいる。
C: 遅れている。
D: 実施見直し、変更必要あり。

彦根市社会教育委員の会議

家庭・学校・地域の教育力の向上をめざして

～三位一体のつながりを～

《報告書》

発行 令和4年（2022年）3月
事務局 彦根市教育委員会事務局生涯学習課

TEL 0749-24-7974

FAX 0749-23-9190

E-mail syogai@mx.hikone.ed.jp